



# お祝いの式典



実行委員長 瀧澤比佐乃さん

「未来を担う、子どもたちのために！」子どもたちの活躍の場にしたい！20数年前、みの〜れを生み出す計画を立てたとき、誰もが賛同したのはこんな考え方でした。これからも、みの〜れでたくさん子どもたちが育ち、誇りをもって巣立っていき、いつか戻って来てさらに活躍してほしいです。

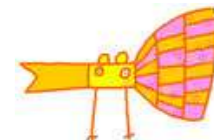
今日はみの〜れ20歳の誕生日。お祝いの式典がはじまりました。どんなお祝いをしようか、何をしようか、実行委員は2年間考え準備を重ねてきました。委員全員が見守る中、式典の幕が開きました。実行委員長の瀧澤比佐乃さんは、20年間みの〜れを大切に育ててきた多くの人の思いの深さを語り、今まで結ばれた人々の絆をこのお祝いの会でさらに深めたいと話しました。

島田幸三市長は来賓としてあいさつし、みの〜れの成長は島田穰一前市長が指揮した「小美玉市まるごと文化ホール構想」が花開いた結果であり、その思いを今後も受け継いで育ってほしいと話しました。荒川一秀市議会議長は、みの〜れ誕生時の美野里町議会議長で、当時は箱物批判が渦巻く中、建設にこぎつけたいき

さつを語り、今まで創意工夫してみの〜れを支えてきた住民と関係者に感謝の言葉を伝え、さらなる飛躍を願いあいさつを結びました。

そして、みの〜れとともにこの20年を歩んできた4組の登壇者によるリレートークがはじまりました。美野里中吹奏楽部の演奏と演劇部の群読が力強く感動的で、この子どもたちが次の時代を担い、みの〜れと一緒に成長していくことを多くの人が確信しました。





# リレートーク

みのくれを人生のそばにおいてイキイキ暮らす人たちが語る



チームリーダー柴山真理子さん

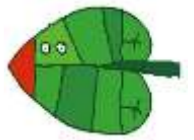
みの〜れ誕生までの6年半を、参画した住民自身の手で描いた本が『文化がみの〜れ物語』。2022年の未来日記からはじまり、2002年から20年後へのラブレターで締めくくられており、予言通りにみの〜れは呼吸する文化センターとして成長し続けています。今回のリレートークはこの本を基に構成、演出した舞台です。

みの〜れを人生のそばにおいて、いきいき暮らすライフスタイルを実践している人たちが、みの〜れライフのすすめをテーマに語るリレートーク。20歳の誕生日を迎えるみの〜れにふさわしい4組6名が登場しました。

BIRDとともに20年寄り添い続けてきたおおたけかずみさん、みの〜れのおかげで人生が変わり独立開業した藤本隆幸さん、みの〜れはサードブレイスという植田麻子さん・池津いく子さん姉妹、みの〜れがあったから輝けたという武石千絵子さん・春空さん母娘。それぞれが20歳の誕生日を迎えたみの〜れにお祝いのメッセージや、今まで自分たちが体験したエピソードを語りました。

リレートークに彩りを添えたのは美野里中学校吹奏楽部とピアノの演奏。『文化がみの〜れ物語』

に書かれていた「2002年からのラブレター」を演劇部が群読し、観客の胸を熱くしました。みの〜れの「〜」は、山あり谷ありという意味です。これからの人生も素晴らしいものでありますように。



# みのくれ 20歳の歴史展



みのくれには、誕生前から住民プロジェクトがスタートし、少しずつ増えながら現在は13のプロジェクトがあります。歴史展示チームは、各プロジェクトで活躍している人たちに光をあてて活動の様子を紹介し、懐かしい写真も添えて展示しました。

また、子どもたちの未来に向けた企画として、光が降り注ぐホワ

イエにメッセージツリーを二本設置。みのくれコミュニケーションキャラクター「BIRD」の生みの親、おたけかずみさんデザインの葉っぱBIRDに夢や願いを書いて飾りました。小美玉市内の幼稚園・保育園の子どもたちと市内外のたくさんの人々が参加し、集まった葉っぱBIRDの総数は1000枚を超えました。参加した子どもたちが自分の葉っぱBIRDを見つげようと、休日に家族とともに訪れて賑わい、かわいい歓声が響き渡りました。メッセージツリーに寄せられた一枚一枚の思いが未来に向かって成長しますように。



チームリーダー 植田みのりさん

これまでみの～れに関わった人々の思いを、歴史展としてときめき美の小径につづりました。いきいきとしたみの～れライフを楽しむ住民の姿をゆっくり見てもらいたいです。この企画にたくさんの方が参加してくれたこと、人との絆が深まったことに感謝しています。



「BIRDぬり絵アーティストたちの芸術展」とのコラボイベント。多数の写真をモザイクのように組み合わせて作成した「BIRD」をポスター展示し、かつプロジェクトで撮影した企画。

市内で行われたイベントに出向き撮り集めた写真で作成したモザイクフォトアートが、風のホールの壁面いっぱいに写し出され迫

力満点。その場で撮った写真がモザイクフォトアートに組み込まれる仕掛けで、子どもたちは夢中で自分の写真を探したり、スクリーンでの影絵遊びをしたりするなど、広い会場でのびのびと遊んでいました。「自分の写真を見つけに来たら友達もたくさん写っていて、良い思い出になりました。」

笑顔いっぱい、色とりどりのBIRDモザイクアートは、人とのつながりが感じられ、みの～れらしい作品になりました。



# BIRDモザイクアート



チームリーダー 柳井郷平さん

コロナ禍で写真の収集が心配でしたが、皆さん快く協力してくれたので感謝しています。たくさんの方が関わりスケールの大きな作品になりました。みの～れらしい作品や展示を見て参加したり、驚いたり、感動したりの思いで活動してきました。これからもみの～れで楽しいことをしていきたいです。



# 交流会



みのゝれ20歳の誕生日の締めくくりに来賓と実行委員による交流会を開催しました。20年前苦労を共にした仲間が再会し、20年間で出会った新しい仲間が交流して思いを語り合いました。一人3分間で語るミニリレートークの順番はくじ引きで決め、みのゝれに縁が深い方々が思い出や今の思いを語りました。

ミニリレートークのトップバッターは、地域文化コーディネーターとして10年間尽力した枝見太朗さんです。みのゝれは住民と行政による共創の理想像だと語りました。

次は初代館長沼田和美さん。当時、建設に反対する住民もいた中で、未来をテーマに据えて、住民主体で計画を進めたことを振り返りました。

山口茂徳さんは民間から登用された三代目館長。みのゝれに対する住民の評価を重視し、人の心を豊かにするきっかけ作りをしたいと思いながらみのゝれを育ててきたことを語りました。

前市長、島田穰一さんは「おらがまちは、おらが手で」と住民参画のまちづくりを推進してきました。これからも住民の手でみのゝれをますます輝かせてほしいと話しました。

水谷俊博さんは、みのゝれの建築設計を担当し「文化がみのゝれ物語」の出版にも関わりました。キャストとして出演したこけら落とし公演の本番前に感極まって大号泣した裏話を披露。みのゝれは夢がもてる場所と高く評価していました。

最後に語ったのは、デザイナーの宮部浩司さんです。20年前に作った『文化がみのゝれ物語』のプログラムが実現していることに感動。講師を務めたデザイナーワークショップで、自分が目指す表現は「人を元気にする、笑顔にすることだ」と気づき、人生を変えた発見だったことを明かしていました。